



2026年9月期第2四半期 決算説明資料

株式会社グローバルキッズCOMPANY 2026年5月15日

将来見通し等に関する注意事項

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

※本資料の著作権は株式会社グローバルキッズCOMPANYに属し、その目的を問わず無断で複製、引用することを禁じます。



2026年9月期第2四半期 決算の概要	4
TOPICS	12
2026年9月期 業績見通し	19
付属資料	21

2026年9月期第2四半期ハイライト

2026年9月期 第2四半期業績

- 売上高は、譲渡・閉園の影響がある一方、M&Aの寄与や保育サービス推進事業補助金の積み増しにより大幅増収
 - 売上高 8,928百万円 (前年同期比+16.8%)
- 保育サービス推進事業補助金の増加に加えて、人件費率改善、採用費抑制やICT投資一巡による関連費用減少が寄与。M&Aの貢献もあり、EBITDAは大幅増
 - EBITDA 610百万円 (前年同期比+77.9%)

2026年9月期 第2四半期 累計業績

- 累計売上高も、M&Aの寄与や保育サービス推進事業補助金の積み増しにより大幅増収
 - 売上高 16,868百万円 (前年同期比+20.7%)
- 第1、第2四半期とも前年同期の水準を大きく上回り、累計EBITDAは大幅増
 - EBITDA 1,197百万円 (前年同期比+67.8%)

2026年9月期 通期業績予想

- 売上高は、M&Aの寄与を主因に前期比22.2%増の見込み。EBITDAは、M&Aの寄与に加えて、保育サービス推進事業補助金の積み増しや採用費・消耗品費等の費用抑制に伴う利益率改善が見込まれ同30.2%増を想定
 - 売上高 33,000百万円 (前期比+22.2%)
 - EBITDA 2,200百万円 (前期比+30.2%)
 - 配当 1株当たり40.0円 (前期比±0.0円)

2026年9月期第2四半期 決算の概要



2026年9月期第2四半期 業績概要

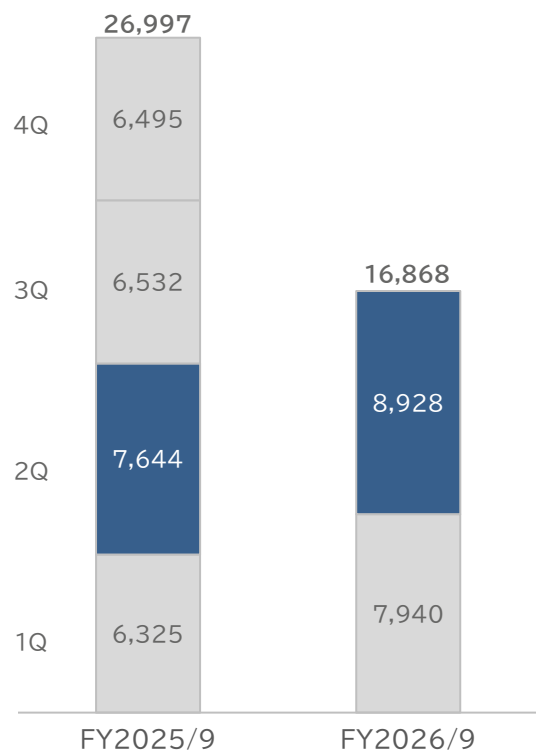
2026年9月期第2四半期 連結業績概要(百万円)

	FY2025/9 2Q累計	対売上高	FY2026/9 2Q累計	対売上高	前年同期比
売上高	13,969	-	16,868	-	+20.7%
売上総利益	1,235	8.8%	1,785	10.6%	+44.5%
EBITDA	713	5.1%	1,197	7.1%	+67.8%
営業利益	298	2.1%	724	4.3%	+142.8%
経常利益	285	2.0%	690	4.1%	+141.5%
親会社株主に帰属する中間純利益	150	1.1%	428	2.5%	+184.6%

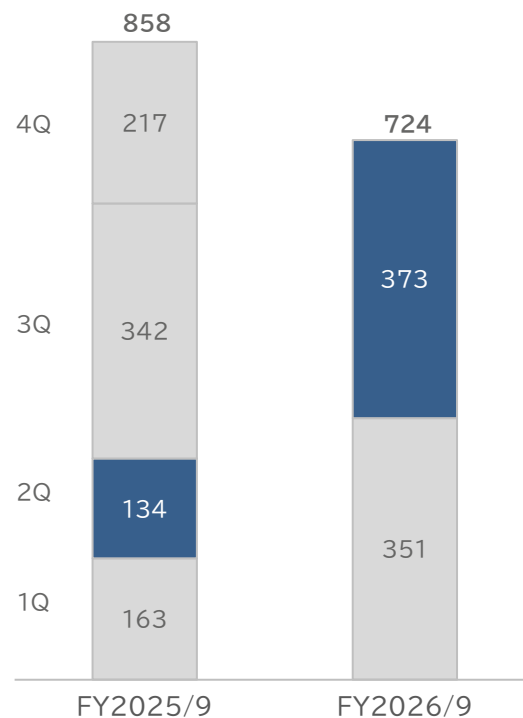
売上高、営業利益、親会社株主に帰属する四半期純利益

第2四半期としては、売上高、営業利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも過去最高を更新。売上高はM&Aが寄与し大幅増収。営業利益はのれん償却費24百万円計上も、保育サービス推進事業補助金積み増しのほか人件費率改善等による売上原価率改善、M&A寄与により前年同期比177.0%増の大幅増益。

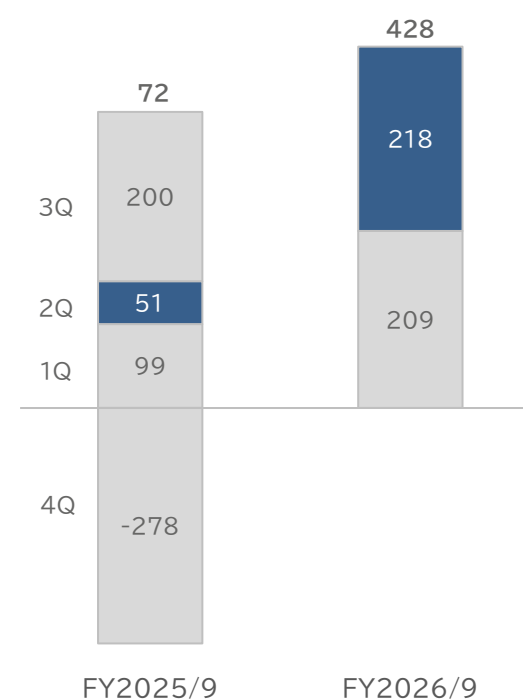
売上高(百万円)



営業利益(百万円)



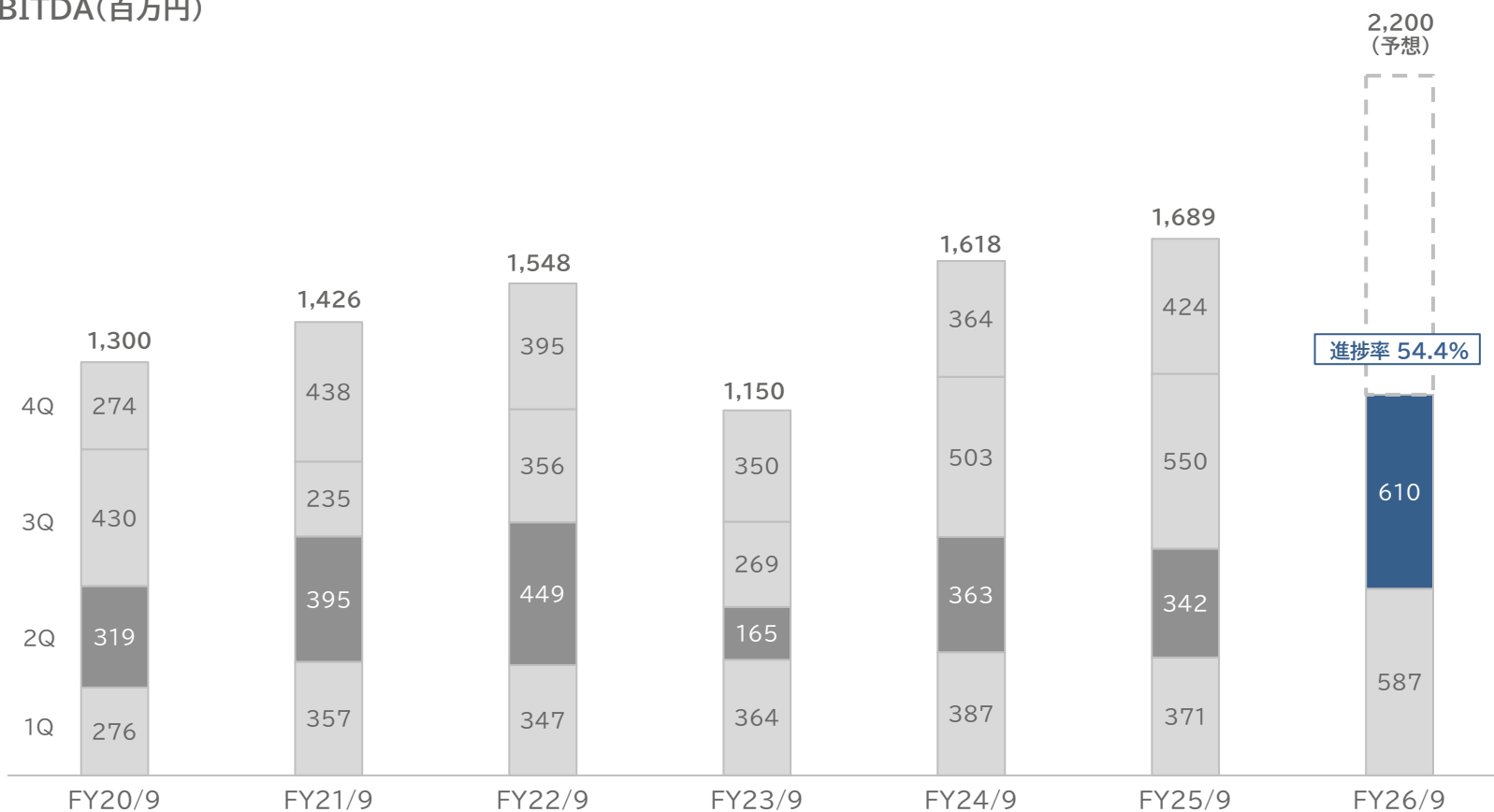
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)



EBITDA

第2四半期のEBITDAは、前年同期比77.9%増の610百万円と過去最高を更新。
予想に対する進捗率は54.4%と順調。

EBITDA(百万円)

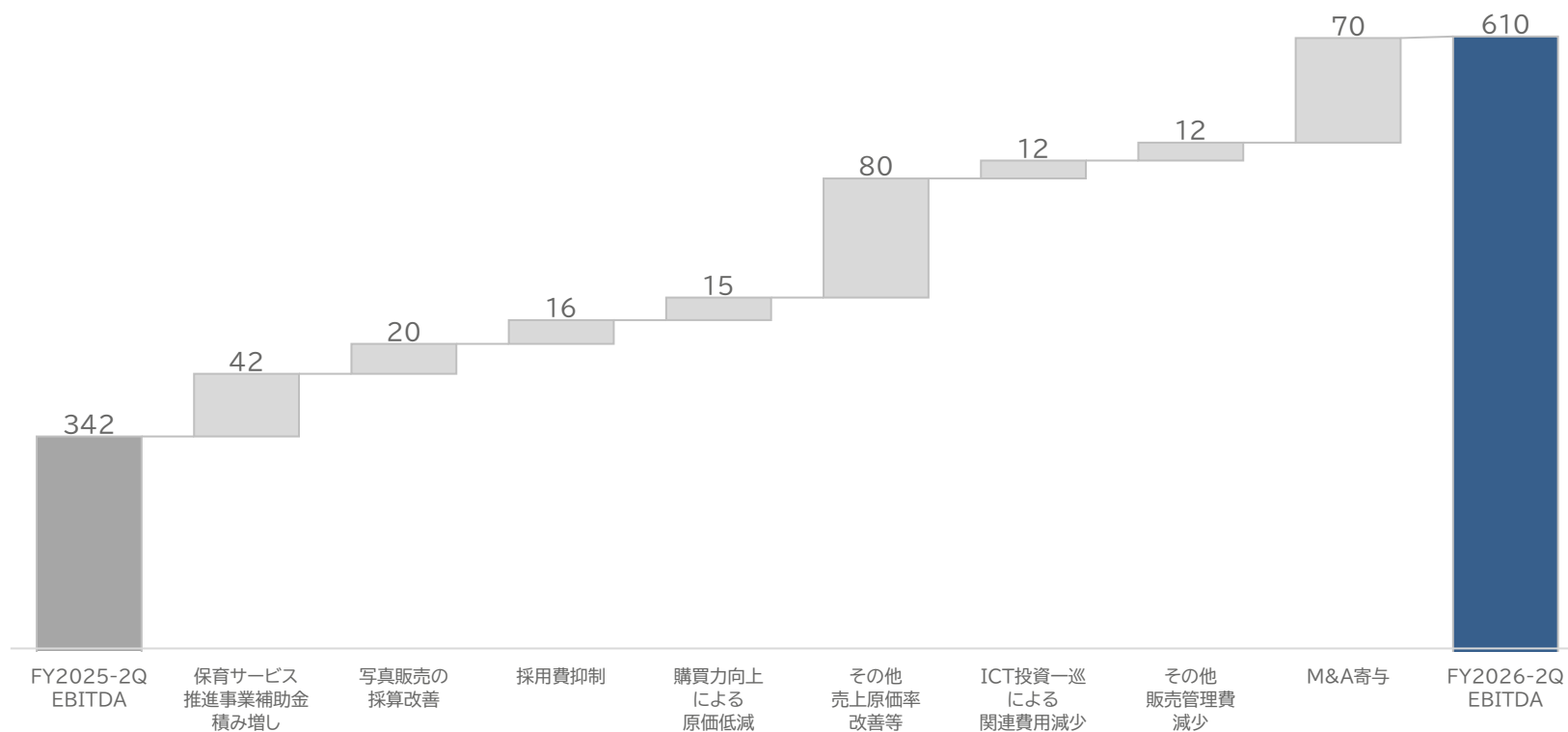


EBITDA変動要因

保育サービス推進事業補助金の増加や人件費率等の原価率改善による既存施設の収支改善やICT投資一巡に伴う関連費用減少に加えて、前期実施のM&Aが想定通りにEBITDAを押し上げ。

第2四半期としては過去最高を更新。

第2四半期 EBITDA変動要因(百万円)

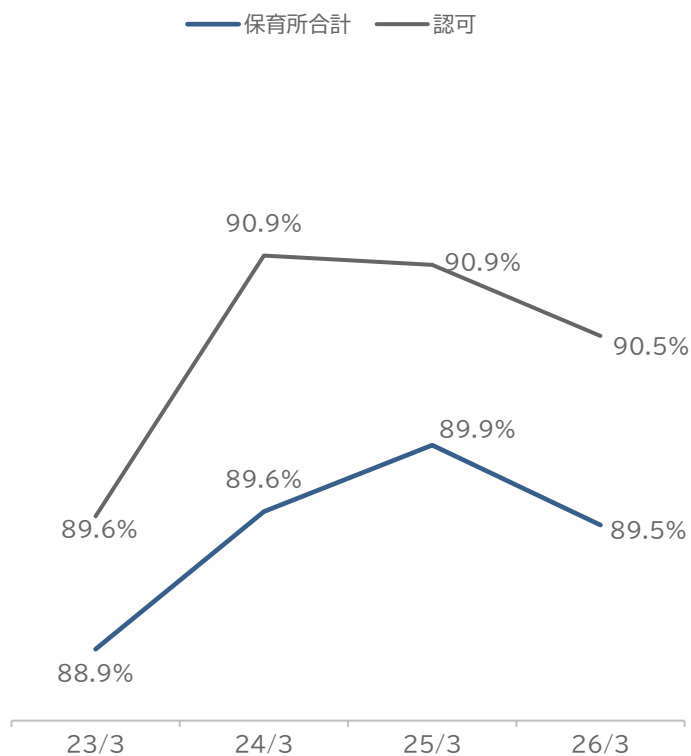


売上高：入所率

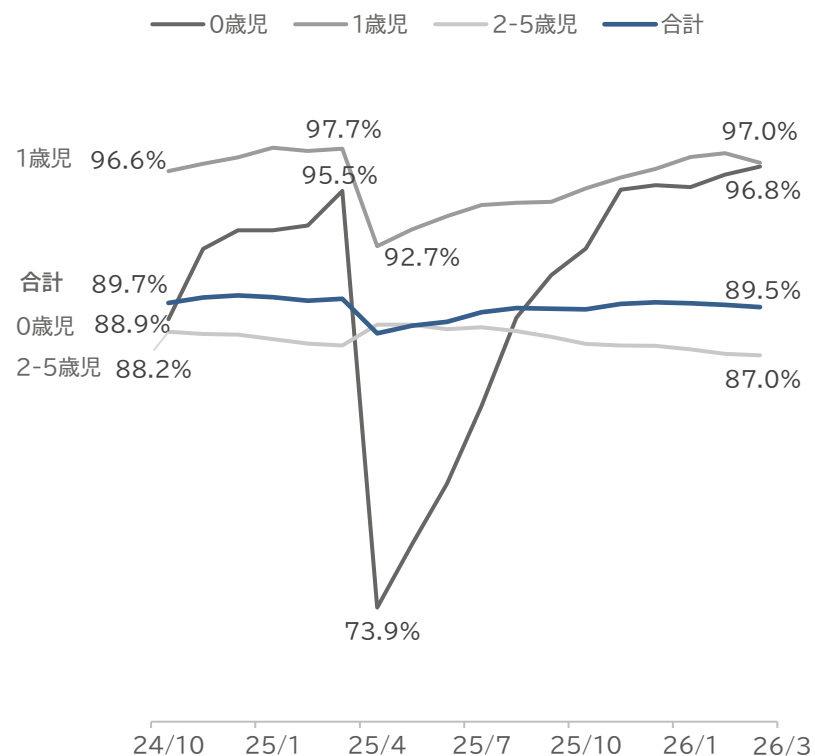
保育所合計の入所率は、わずかながら減少。

歳児別では、東京都の保育料等の第一子無償化施策が追い風となり、0歳児の3月入所率は96.8%と前年同月を1.3pt上回る。

保育所計



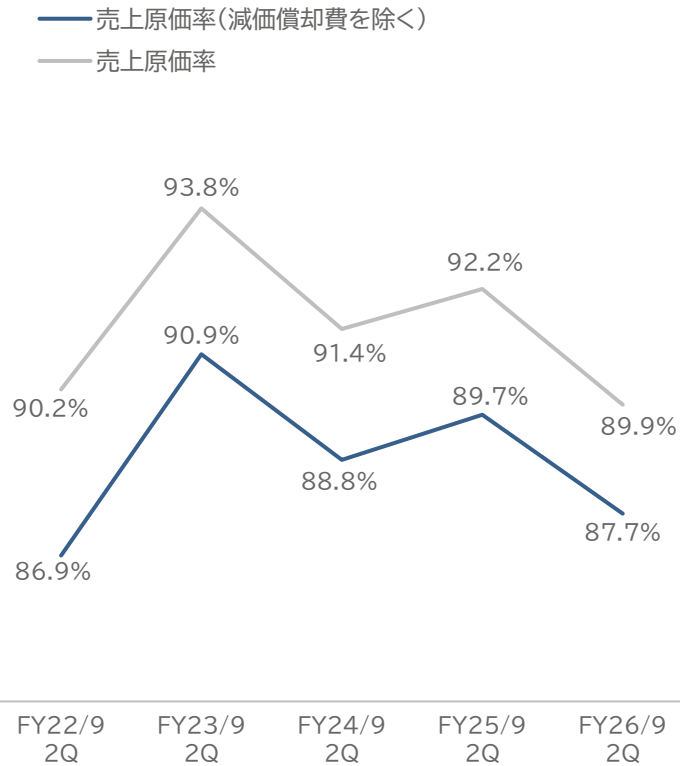
歳児別



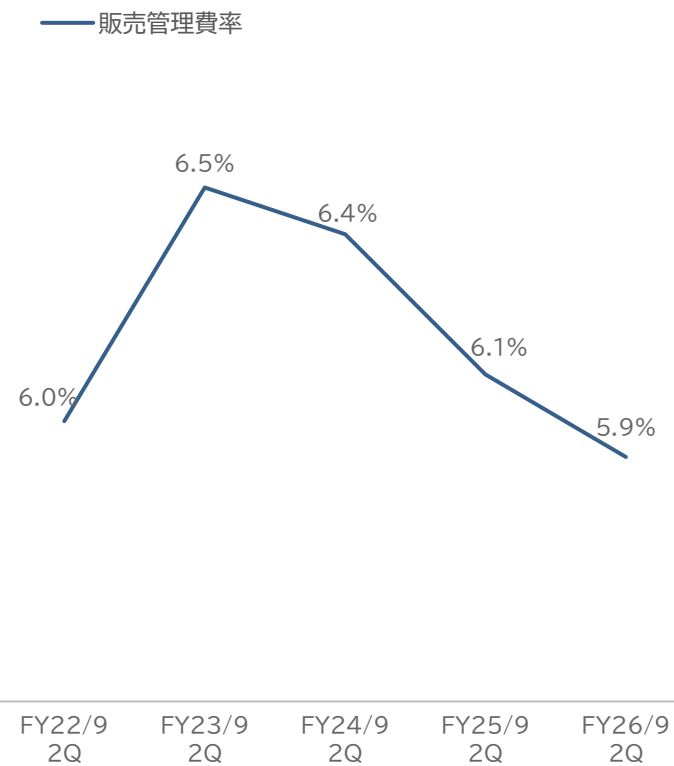
売上原価率・販売管理費率

採用費、水道光熱費等の費用抑制や人件費率改善により売上原価率(減価償却費を除く)は前年同期比2.0pt低下。
販売管理費率はICT関連費用の減少を主因に0.2pt低下。

売上原価率



販売管理費率

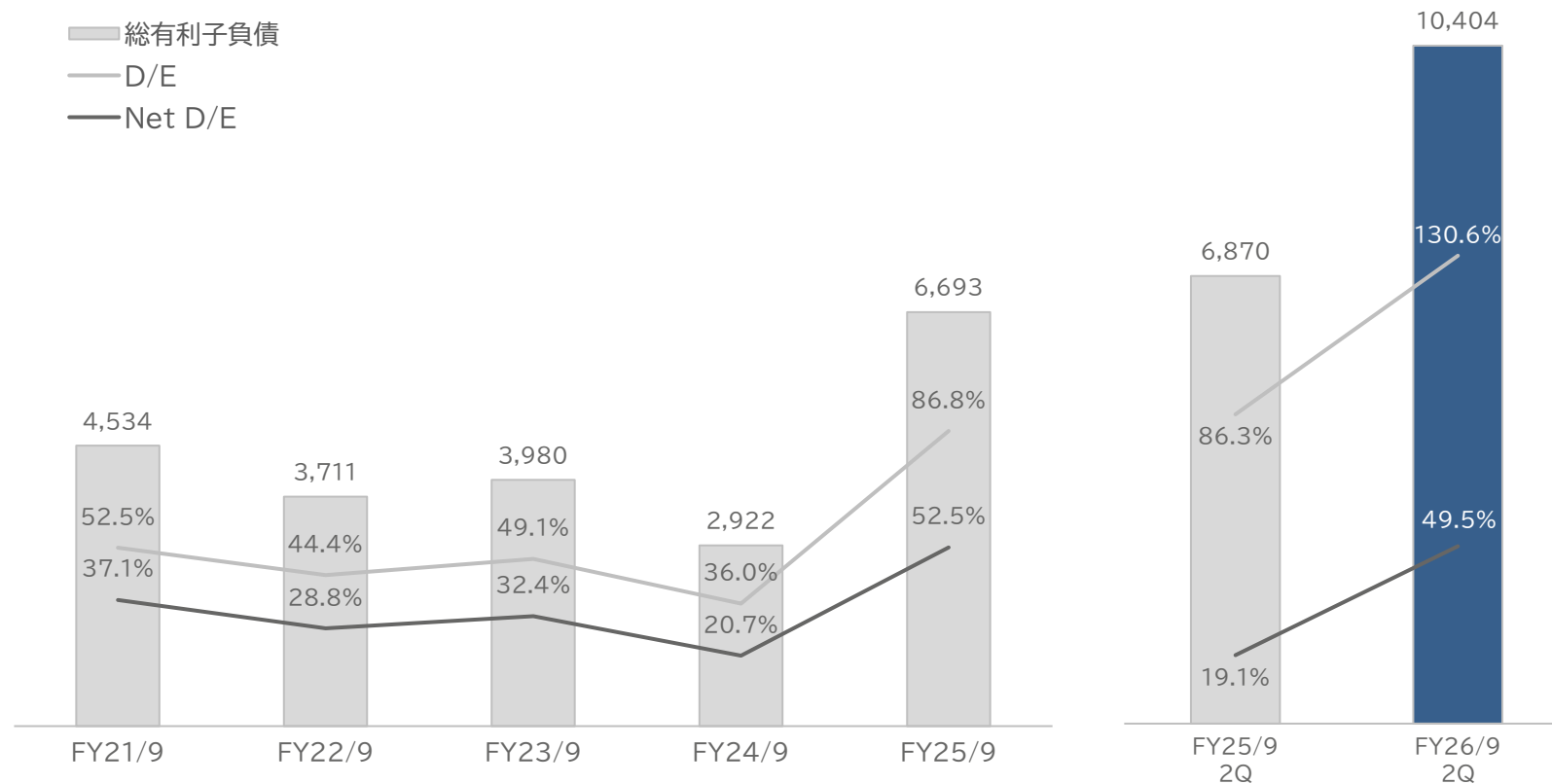


注)FY23/9に会計方針を見直し、施設に係る租税公課及び採用広告費を販売管理費から売上原価計上に変更。FY22/9以前は同様のベースに調整

財務健全性

M&A資金の借入及び一部運転資金の短期借入調達により、有利子負債は増加。D/Eレシオは一時的に130.6%に上昇したものの、現預金を差し引いたNet D/Eレシオは49.5%と引き続き財務の健全性を維持。

D/Eレシオ、総有利子負債(百万円)



TOPICS

M & AのPMIの状況

前期に株式取得したアソシエグループは、今期より連結P/Lに寄与。通期でも着実な利益寄与を見込む。本部管理部門の融合、共同購買等によるシナジー発現を推進。

■連結業績への寄与

- みなし取得日を2025年9月30日として連結会計処理を行っており、アソシエ・アカデミー及びアソシエ・インターナショナルの損益については、今期期初より連結。
- アソシエグループの業績は計画通りに進捗し連結業績に寄与。通期でも着実な利益寄与を見込む。
- 取得価額 3,200百万円
- 第2四半期累計のEBITDA寄与 170百万円

■PMIの進捗

- 保育所及び学童クラブ等において、安定した運営体制を継続。安心安全な保育環境及び職員の労働環境を維持。
- 本部管理部門の業務融合を開始。オフィス統合、バックオフィス業務の共通化、グループ全体の管理コスト適正化を推進。
- 情報セキュリティ強化を実施。個人情報保護をはじめとする情報資産の保護管理体制を構築。
- 食材仕入や電力・消耗品等の購買枠組み見直しによる購買力強化について検討を開始。スケールメリットを活かし収益率の改善を図る。
- 管理栄養士間の献立作成ノウハウや食育事例の共有を通じ、えんごはん・食育の質向上を推進。
- 新規事業分野で、講師の相互起用など人材交流を開始予定。

イエナプラン教育

保育の質向上・教育の専門性を追求し、選ばれる園としての差別化を図るため「イエナプラン教育」ビジョンの全社導入を推進中。国内初・同時認定としては最多となるグループ11施設が「研究推進園」に認定。



■「研究推進園」認定施設

- グローバルキッズ飯田橋園
- グローバルキッズ蒲田第二保育園
- グローバルキッズ新大塚園
- グローバルキッズ東日暮里園
- グローバルキッズ曳舟保育園
- グローバルキッズ代々木八幡園
- グローバルキッズ日吉園
- グローバルキッズ大倉山園
- グローバルキッズ美しが丘保育園
- おはよう保育園清澄白河
- おはよう保育園南砂町

※認定：一般社団法人日本イエナプラン教育協会

■進捗状況

新たに16施設の「研究推進園」認定に向け、本年度は保育・教育の質のさらなる向上を目指し、サポート体制を強化。

Kinderland International Educationと基本合意書を締結

シンガポールを中心に東南アジアで広範な教育ネットワークを展開する、Kinderland International Education Pte Ltd.(Crestar Education Group傘下)と、業務提携に向けた協議・検討を進める基本合意書を締結。



■背景と目的

- 両社の教育理念の共有と将来的な連携に向けた協議を行い、急速に変化するグローバル社会において、幼少期から多様な価値観に触れ、「生きる力を育む」環境の重要性について合意。
- 両グループの経営資源とノウハウを融合させ、日本の保育と、海外の教育を活用した保育・教育プラットフォームの構築を図る。
- 日本とシンガポール、それぞれの国で培われた質の高い教育・保育ノウハウを掛け合わせた、既存の枠組みにとられない保育サービスや事業モデルの共同開発を目指す。

■今後の展望

2026年中のオンラインセッション定例化に加え、保護者向け交流イベントの開催や、職員の専門性を高める交流機会創出に向けた計画始動に合意。将来的にはアジアを代表する保育・教育プラットフォーム構築を目指す。

「グローバル・シチズンシップ推進室」の設置

当社グループの持続的な成長と、理念・ビジョン実現を目指し、新たな企業ミッション「グローバル・シチズンシップを育む」を掲げ、その浸透・具現化を推進するため、社長直轄部署として「グローバル・シチズンシップ推進室」を設置。

■背景と目的

連結子会社であるグローバルキッズの創業20周年の節目を迎え当社グループの存在意義をより明確にするため、企業ミッションとして「グローバル・シチズンシップを育む」を公表。当社グループでは、グローバル・シチズンシップを「自分も周りの人も大切にしながら、より良い社会づくりに主体的に参画する力」と定義。この理念を具現化すべく、今後は以下の4つの領域において具体的な施策を「グローバル・シチズンシップ推進室」が担当。

- **対自分:自己理解と自己実現の追及**
自分自身の個性を理解し、主体的なキャリア形成や「なぜ」を問い直すりフレクションを通じて、個の力を最大化
- **対子ども:好奇心と探求心を育む**
子どもの発達への力を信頼し、その好奇心を遮ることなく引き出し、安心できる環境の中で未来を切り拓く力を育む
- **対職員:自律的に輝ける組織のデザイン**
職員一人ひとりが「自分ごと」「当事者意識」を持ち、対話を通じて互いの個性を尊重し合い、自律的に働ける環境を構築
- **対社会:広い世界との積極的な協働**
地域社会や他企業など、広い世界と連携を深めることで、共通のゴールである「子ども達の未来のために」を具現化

■今後の展望

この新ミッションを当社グループ全社に深く浸透させ、具体的な行動として具現化することで、次なる躍進に向けた確固たる人的・文化的基盤確立に。

東京都出生数

東京都の出生数は2025年に増加(速報値)。

東京都内を中心に施設展開する当社にとっては事業拡大の追い風。

東京都出生数9年ぶりの増加

- 東京都の2025年出生数(速報値)は、88,518人と前年比1.3%増(注1)
- 東京都が「チルドレンファースト」を掲げ、給付金や保育料無償化、医療費助成の拡大などの施策実行が功を奏す
- 東京都の2026年子育て支援関連予算案は、前年比10%増の2兆2千億円と引き続き子育て世帯を支援(注2)

ドミナント戦略の優位性

- 当社グループの運営施設数205のうち東京都で展開している施設は174に上る
- うち保育所は全171のうち141が東京都で運営
- 東京都内中心に施設展開し、東京都認可保育所の運営施設数が業界No.1である当社グループにとって、ドミナント戦略の優位性が高まる好機

注1)出所:厚生労働省 人口動態統計速報

注3)出所:令和8年度東京都予算案の概要

株主優待制度新設

当社株式の投資対象としての魅力を高め、より多くの投資家の皆様に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に、従前より株主還元として実施している現金配当に加え、株主優待制度を新設。

■制度の概要

- 毎年3月末日及び9月末日時点の株主名簿に記載された500株以上を保有する株主様に、株主優待を進呈
- 3月末日時点の対象株主様には6月下旬頃、9月末日時点の対象株主様には12月下旬頃に発送予定

■対象となる株主様

- 基準日(毎年3月末、9月末)現在の株主名簿において、同一の株主番号にて500株以上の保有が2回連続(3月末及び9月末)で記載または記録されている株主様
- 初回は、2026年3月末日を株主優待制度の基準日とし、2025年9月末及び2026年3月末の当社株主名簿に同一の株主番号で500株以上の保有が2回連続で記載または記録されている株主様が対象

■株主優待の内容

保有株式数	継続保有期間	株主優待の内容
500株以上	半年以上	年2回「giftee Box®」10,000ポイント (年間20,000ポイント)

(注)「giftee Box®」は、株式会社ギフトが提供するデジタルギフトであり、様々なラインナップの中から進呈された「ギフトポイント」内でお好きな商品と交換可能。「giftee Box®」及び「ギフトポイント」の利用には会員登録やアプリダウンロードの必要もなく、保有ポイント内で複数のギフトの選択にも対応

2026年9月期 業績見通し

2026年9月期 業績見通し

2026年9月期の売上高は、アソシエ・アカデミー及びアソシエ・インターナショナルの連結寄与を主因に前期比22.2%増の見込み。M&Aの寄与に加えて、職員配置適正化、補助金の積み増し等によりEBITDA、営業利益とも3期連続で過去最高益を更新する見込み。親会社に帰属する当期純利保育サービス益は、特別損失減少を見込み大幅増加を予想。

(百万円)	FY2025/9 実績	FY2026/9 予想	前期比
売上高	26,997	33,000	+22.2%
EBITDA	1,689	2,200	+30.2%
営業利益	858	1,200	+39.8%
経常利益	808	1,120	+38.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	72	650	+796.1%
1株当たり配当金	40.0円	40.0円	±0.0円

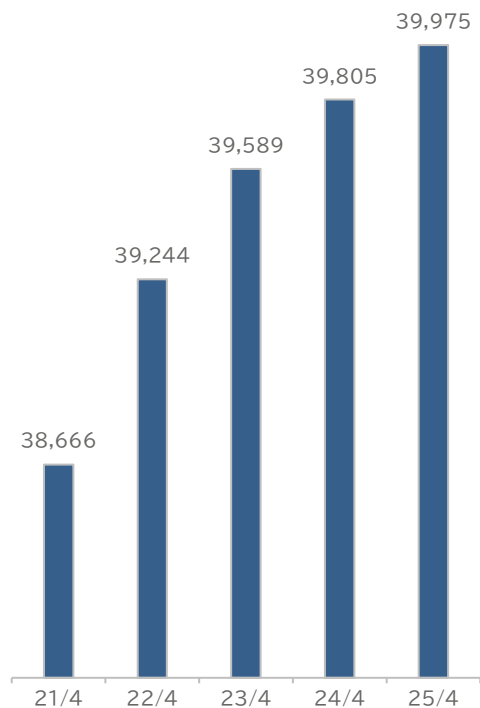
付属資料

運営施設数の内訳

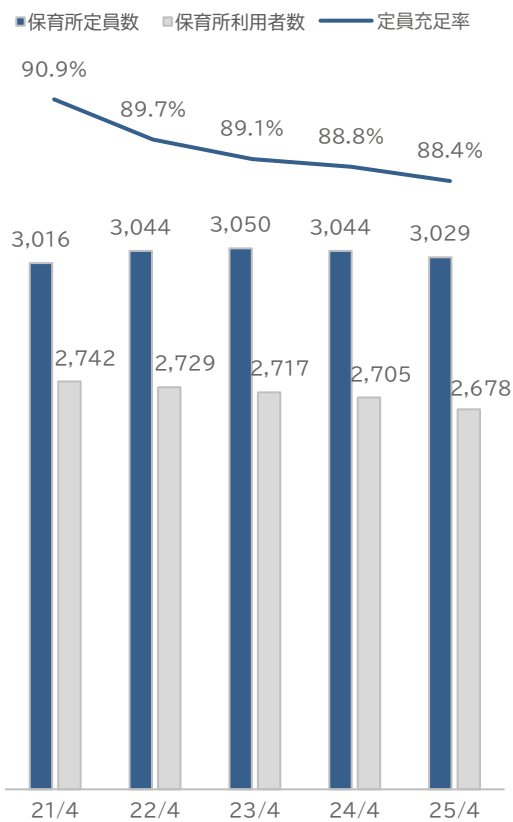
	FY15/9	FY16/9	FY17/9	FY18/9	FY19/9	FY20/9	FY21/9	FY22/9	FY23/9	FY24/9	FY25/9	FY26/9E
認可(東京都)	28	38	56	70	86	91	98	103	115	115	133	133
認可(神奈川県)	16	17	19	20	23	25	27	28	29	29	30	30
認可(その他)	3	5	6	8	9	9	10	10	10	5	2	-
東京都認証	21	22	20	20	17	17	16	15	15	4	3	1
認定こども園・ その他保育所	5	6	5	5	6	6	6	5	7	4	8	7
企業主導型	-	-	-	7	11	11	11	-	1	-	-	-
学童・児童館	10	11	12	12	13	13	12	10	11	11	25	26
児童発達支援	-	-	-	-	1	4	4	3	-	-	1	1
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7
合計	83	99	118	142	166	176	184	174	188	168	209	205

保育所数、定員充足率、待機児童数

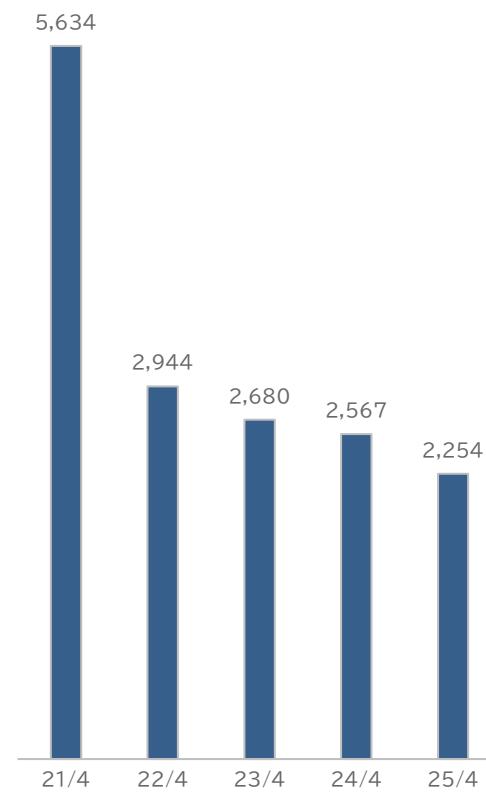
全国保育所等数



全国保育所の定員と利用状況(千人)



全国待機児童数(人)



出所:厚生労働省、こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ」より



GlobalKids 